

平成28年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 クレオ

コード番号 9698 URL <http://www.creo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 阿南 祐治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員財務管理室長

(氏名) 雨田 高志

TEL 03-5769-3640

四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第1四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	2,158	△9.2	△38	—	△25	—	164	—
27年3月期第1四半期	2,376	9.8	△120	—	△116	—	△141	—

(注) 包括利益 28年3月期第1四半期 164百万円 (—%) 27年3月期第1四半期 △140百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第1四半期	19.00	—
27年3月期第1四半期	△16.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第1四半期	6,551	—	4,919	—	—	74.5
27年3月期	7,159	—	4,799	—	—	66.5

(参考) 自己資本 28年3月期第1四半期 4,881百万円 27年3月期 4,760百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
28年3月期	—	—	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第2四半期(累計)	4,000	△26.3	10	△89.6	100	209.7
通期	10,000	△12.5	300	△21.3	350	64.0

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

特定子会社の異動には該当しておりませんが、当第1四半期連結会計期間において、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、平成28年3月期より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

詳細は、添付資料P3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期1Q	9,237,319 株	27年3月期	9,237,319 株
28年3月期1Q	581,946 株	27年3月期	581,646 株
28年3月期1Q	8,655,657 株	27年3月期1Q	8,657,736 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、利上げ時期を模索する米国は穏やかな景気拡大を続け、原油安及び円安を背景に企業業績が好調な日本は緩やかな回復基調にあります。一方、中国は不動産市場の低迷に加えて株式市場の大幅な下落もあり景気減速の懸念が高まっています。また、欧州は景気持ち直しの兆しを呈しながらもギリシャの債務問題の先行き不透明感も残り、世界経済全体としては緩やかな回復にとどまっています。わが国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により一部に弱さが残るものの、次第にその影響が薄れ、各種政策の効果が発現するなかで、緩やかに回復していくことが期待される状況でありました。

当業界におきましても、顧客の情報化投資に対する慎重な姿勢は変わらず、製品・サービスの受注のためには新たな投資を積極的に行い営業力、技術力の向上が必要な状況にあります。

このような状況の中、当社グループは平成27年4月にBtoCビジネスを展開する筆まめ事業の譲渡を実施し、BtoBビジネスに対し集中的な投資を行い同ビジネスの成長を促進することを目指しております。また、譲渡の実施に伴い、当第1四半期連結会計期間より、「筆まめ事業」は報告セグメントから除外しております。

※BtoB：企業対企業間の取引 (Business to Business)

BtoC：企業対消費者間の取引 (Business to Customer)

なお、当第1四半期連結累計期間における、当社グループの状況は、売上は筆まめ事業の売却により前連結会計年度より減収となりましたが、営業利益、経常利益は不採算プロジェクトの影響減少等により損失が減少、当期純利益に関しては筆まめ事業の株式売却益により大幅に増加となりました。

以上の結果、売上高21億58百万円（前期比9.2%減）、営業損失38百万円（前期は営業損失1億20百万円）、経常損失25百万円（前期は経常損失1億16百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億64百万円（前期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億41百万円）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

- ・クレオマーケティング事業（主たる事業：基幹系・情報系業務ソリューションから、組み込み系ソフトウェアまで、トータルICTソリューションの開発・提供）

人事給与、会計を中心としたZeeM製品の販売は順調に進んでおり、売上高は前期と比較して大幅増加となりました。利益に関しては、前期の利益に大きな影響を及ぼした不採算プロジェクトの影響が減少したことにより増加しました。

その結果、売上高は5億12百万円（前期比12.7%増）、営業損失34百万円（前期は営業損失55百万円）となりました。

- ・クレオソリューション事業（主たる事業：システムやネットワークの構築から、各種業務アプリケーションの開発）

前期より引き続き、サービス品質の向上による顧客との信頼強化、商談時からのプロジェクト点検の徹底を推進しましたが、既存顧客の受注減や複数プロジェクト受注が次四半期にずれた事により、前期より売上・利益共に減少いたしました。

その結果、売上高は7億53百万円（前期比8.5%減）、営業損失8百万円（前期は営業利益19百万円）となりました。

- ・クレオネットワークス事業（主たる事業：ICT基盤サービスプラットフォームとメディアプラットフォームの提供）

ビジネス基盤サービス「SmartStage」を中心としたサービス展開は堅調に進みましたが、前期メディア事業の売却により売上高は前期と比較してほぼ横ばいとなりました。利益に関しては、全般的な原価、販売管理費の削減により黒字転換しました。

その結果、売上高は1億20百万円（前期比0.0%増）、営業利益10百万円（前期は営業損失36百万円）となりました。

- ・クリエイトラボ事業（主たる事業：ヘルプデスクなどを中心としたサポート&サービス）

一部顧客向けサービスにおけるサービスの縮小、単価の下落等により売上は減少となりました。また利益においても売上減の影響により減少しました。

その結果、売上高は7億71百万円（前期比6.5%減）、営業利益21百万円（前期比42.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、4億54百万円の減少となりました。

これは主として現金及び預金の増加、売掛金の減少によるものです。

固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億54百万円の減少となりました。

これは主として筆まめ事業の売却に伴うソフトウェアの減少によるものです。

流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ、7億20百万円の減少となりました。

これは主として筆まめ事業の売却に伴う未払金及び返品調整引当金、賞与引当金の減少によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ、1億20百万円の増加となりました。

これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想に関しましては、平成27年5月13日付け「平成27年3月期決算短信」において公表いたしました数値より変更はございません。

連結業績予想には、リスクや不確実性を含んでおり、そのための様々な要因の変更により、大きく異なる結果になる可能性があります。通期の連結会計期間においては、以下のようなリスクがあります。

クレオマーケティング事業については、新規顧客の獲得の遅れが生じた場合、あるいは通期の連結会計期間に予定しているライセンス販売等の検収が来期にずれ込む場合には、予想と実績が大きく乖離する可能性があります。

クレオソリューション事業については、事業の性質上通期の連結会計期間末に検収が集中しており、検収の進捗により売上計上時期が来期にずれ込む可能性があります。また、今後の開発状況によっては不採算プロジェクトが顕在化する可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、平成28年3月期より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)
及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成27年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,553	3,922
受取手形及び売掛金	2,149	1,223
商品及び製品	24	7
仕掛品	204	356
その他	186	152
流動資産合計	6,118	5,663
固定資産		
有形固定資産	202	181
無形固定資産		
その他	488	380
無形固定資産合計	488	380
投資その他の資産	350	325
固定資産合計	1,041	887
資産合計	7,159	6,551
負債の部		
流動負債		
買掛金	433	312
未払法人税等	43	6
賞与引当金	461	206
返品調整引当金	79	—
その他	1,220	992
流動負債合計	2,237	1,517
固定負債		
未払役員退職慰労金	26	26
資産除去債務	53	48
その他	42	38
固定負債合計	122	113
負債合計	2,360	1,631
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,149	3,149
資本剰余金	743	743
利益剰余金	1,013	1,135
自己株式	△178	△179
株主資本合計	4,728	4,849
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	32	32
その他の包括利益累計額合計	32	32
非支配株主持分	39	38
純資産合計	4,799	4,919
負債純資産合計	7,159	6,551

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
売上高	2,376	2,158
売上原価	1,930	1,780
売上総利益	446	377
販売費及び一般管理費	566	416
営業損失(△)	△120	△38
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取保険金	2	—
助成金収入	—	11
その他	0	0
営業外収益合計	4	12
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常損失(△)	△116	△25
特別利益		
子会社株式売却益	—	204
その他	—	0
特別利益合計	—	204
特別損失		
和解金	10	—
その他	—	0
特別損失合計	10	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	△126	178
法人税、住民税及び事業税	3	4
法人税等調整額	10	8
法人税等合計	13	12
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△140	165
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	△141	164

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△140	165
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△0
その他の包括利益合計	0	△0
四半期包括利益	△140	165
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△140	164
非支配株主に係る四半期包括利益	0	1

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	筆まめ 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高						
外部顧客への売上高	454	823	152	120	825	2,376
セグメント間の内部売上高 又は振替高	12	2	—	34	133	183
計	467	825	152	155	959	2,560
セグメント利益又は損失(△)	△55	19	△72	△36	36	△108

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△108
セグメント間取引消去	△43
全社費用及び利益(注)	31
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△120

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クレオ マーケティング 事業	クレオ ソリューション 事業	クレオ ネットワークス 事業	クリエイトラボ 事業	合計
売上高					
外部顧客への売上高	512	753	120	771	2,158
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	24	22	117	174
計	522	778	143	888	2,332
セグメント利益又は損失(△)	△34	△8	10	21	△11

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△11
セグメント間取引消去	△127
全社費用及び利益(注)	99
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△38

(注) 全社費用及び利益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費や経営指導料等であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、経営資源の選択と集中に対する検討を慎重に重ねた結果、BtoBビジネスへの事業に経営の舵をきることが決定しました。決定に伴い、平成27年4月20日をもって、当社は株式会社筆まめの全株式を売却し、当第1四半期連結会計期間より株式会社筆まめは連結の範囲から除外されました。

上記に伴い、当第1四半期連結会計期間より、「筆まめ事業」は報告セグメントから除外しております。